

審議会等の会議の記録

会 議 の 名 称	第1回(仮称)伊勢崎市中小企業・小規模企業振興基本条例策定検討委員会
開 催 日 時	令和6年6月5日(水) 14時から
開 催 場 所	伊勢崎市役所東館3階災害対策室
出 席 者 氏 名	委員 大澤委員、関口委員、小保方委員、田中委員、里見委員、南雲委員、定形委員 (欠席 赤尾委員) 市長 事務局 田部井産業経済部副部長、石原商工労働課長、安原企業誘致係長、久保商工振興係長、和田主査、中澤主任
傍 聴 人 数	0人
会 議 の 議 題	議 事 (1) 条例案の検討について (2) 伊勢崎市の現状について (3) 伊勢崎市の中小企業・小規模企業振興施策について (4) 意見交換 (5) その他
会 議 資 料 の 内 容	資料1：条例案の検討について 資料2、資料2(追加)：伊勢崎市の現状について 資料3：伊勢崎市の中小企業・小規模企業振興施策について

会 議 に お け る
議 事 の 経 過
及 び 発 言 の 要 旨

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. あいさつ
伊勢崎市長 臂 泰雄
4. 自己紹介
5. 委員長及び副委員長の互選について
大澤委員長、赤尾副委員長
6. 議事
 - (1) 条例案の検討について
事務局による説明
【委 員】 次期総合計画の内容で、今後我々が検討していく条例案の参考となるポイントはあるか。
【事務局】 次期総合計画の概要及び策定スケジュール、並びこれから検討していく条例は理念的条例である旨を説明
 - (2) 伊勢崎市の現状について
事務局による説明
【委 員】 団体の会員数は20年前から比較してもかなり減っている。個人事業主において年齢的な問題で廃業をしているというのが多い。それと併せて後継者不足の問題がある。団体としても事業承継を手伝うなど廃業をしないようにできるだけフォローをしているが、それでも越えられない現状がある。
【委 員】 事業承継がうまく進まないのはどうしてか。
【委 員】 いわゆる一人親方タイプが多い。技術的には良いものを持っているが、営業面その他に課題がある。我々から見てもかなりもったいない。個々に合ったアプローチをして継続的にフォローすることによって事業者数が減っていかないようにしていかなければならない。資料2のグラフを見ると労働生産人口が多く働き手が多いように思えるが、体感的には労働力は慢性的に不足しており、未だに4～5人程度の小規模企業の規模でやっているところもある。また自分自身と同様の苦労を子どもにさせたくない考える経営者も多い。それこそコロナ渦では製造業やサービス業、建設業等もかなり大変だったが、伊勢崎市の補助金や国の補助金等によって支えられたこともあり、会員数は回復基調にある。特にリフォーム助成やプレミアム商品券事業は体感的な効果が大きかったように思える。
 - (3) 伊勢崎市の中小企業・小規模企業振興施策について
事務局による説明
【委 員】 資料に恒常的な実施事業と記載があるが、今後も継続的に実施を予定しているものか。
【事務局】 予算の成立が前提となるが記載の事業についてはこれまでも継続的に実施してきているものであり、今後も引き続き継続できるようにしっかりと予算要求を行っていきたい。
【委 員】 団体としても市で実施しているリフォーム助成や小規模事業者サポート補助金等の各種商工振興事業に期待をしているところだが、一時期に比べてプレミアム商品券の補助率が低下しているように思えるので、そちらに関しても予算を検討していただけるとありがたい。
【事務局】 プレミアム商品券事業について、令和3年度と令和4年度は緊急経済対策として国の交付金を活用することで規模

を大きくして実施し、消費力の向上に寄与できた。令和5年度については同じく国の交付金を活用し、電子地域通貨「I S E C A」のスタートアップキャンペーンで展開した。今後のプレミアム商品券事業の在り方については、経済的な効果や電子地域通貨の活用方法等を総合的に勘案して検討していきたい。

(4) 意見交換

【事務局】 団体の状況などお聞かせください。

【委員】 同様な状況である。近年の会員の退会理由について、多いのはやはり高齢化、事業承継ができない、廃業等のネガティブな意見が目立つ。最近では事業休眠というのも出てきた。M&Aに関しても県のほうに相談窓口はあるが、そもそも相談すること自体ハードルが高いのではないかと感じているところである。新規開業、創業支援のプランを各種考えているが、いわゆる一人親方タイプの会員が多く、法人化するケースはかなり少ない。

【委員】 逆に上手くいってるケースはあるか。

【委員】 人脈がすでに構築されている方が上手くいっていることが多い。そういった人脈で仲間のなかで上手く仕事が回っているケース。また飲食業等でSNSの活用による有効的な情報発信が行えているところも比較的上手くいっているのではないと思う。

【委員】 最近の新会員もSNSを活用している方が若手のなかで増えてきている。その反面今までの商工会の会員の職人や技術者のな者たちはなかなかその流れに乗っていけないというギャップもある。また大学へ進学しても卒業後に地元へ帰ってこない、地元企業に就職しないという課題もある。地元企業が活性化して、就職先としての選択肢となり得る魅力的な企業が多くなる状況が望ましい。

(5) その他

次回の委員会日程等について事務局から連絡

7. 閉 会